

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3992600043		
法人名	社会福祉法人 黒潮福祉会		
事業所名	グループホーム 和夏		
所在地	高知県幡多郡黒潮町佐賀3179-7		
自己評価作成日	平成27年11月11日	評価結果 市町村受理日	平成28年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

太平洋を180度の大パノラマで望む高台に立地し、自然豊かな環境の中で四季の景観を365日満喫して穏やかに過ごせる環境にある。同一法人の特別養護老人ホームやデイサービスとの合同で行う行事にも参加し、幅広く地域と交流できる。緊急時における事業所間の連携、協力体制も整っており、入居者の安全と豊かな暮らしを支援できる。又、家庭生活の継続を考えた取り組みとして家族宿泊もできるようになっている。方針として「今日の笑顔、より明日の笑顔を求めて」とし、入居者皆様の尊厳を重視しながらプライバシー保護への職員教育につとめている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokansaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigyosyoCd=3992600043-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成27年12月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は太平洋を望む風光明媚な高台に位置し、同一敷地内に特別養護老人ホーム、デイサービスセンターが併設されている。理念とする「個人の尊厳の保持と自立支援」を目指し、利用者の出来る事を支え、出来ないことに手を足しながら、一人ひとりに合わせたケアに取り組んでいる。職員と一緒に掃除やモップがけを自発的に行う利用者もあり、家事能力の維持が生活に張り合いを持たせている。

周辺にまとまった人家はないが、運営推進会議のメンバーから情報や協力を得て、地区の老人運動会に参加したり、小・中学校の運動会を見学に行くなど、地域の行事に積極的に出かけている。地域に認められる事業所になれるよう、管理者は新たな事業運営を模索し、検討を重ねている。理念である「今日の笑顔より、明日の笑顔」のもと、個人の尊厳の保持と利用者一人ひとりの思いを大切に、日々のケアに取り組んでいる。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時から地域密着型の理念を作成しており、日頃より、目に触れやすい場所に掲げて暗唱して意識付けを行い実践に向けて取り組んでいる。	「個人の尊厳、自立支援、地域に根ざした明るい事業所づくり」の理念のもと、本人の出来る事を支え、その人らしい暮らしができるよう取り組んでいる。理念を目に付きやすい玄関入口に掲示し、職員会や毎朝の申し送りで確認しながら、意識を共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域と離れた立地条件の為、日常的な地域交流はないが、「かしま荘」との合同夕涼み会には地区の方を招待したりフラダンスショーがある。又、地区の盆踊りへの参加や町内敬老運動会に地区で参加した。	事業所は地域の集落から離れているが、運営推進会議で地区長や民生委員から情報を得ている。年1回敷地内で開催する法人主催の夕涼み会では、多くの家族との交流を図り、デイサービス利用者や仲良くなったり、地区の盆踊りや老人運動会等へも積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政と連携して、家族や地域の方々への相談窓口となっている。地域包括支援センターよりの声掛けで、認知症家族の会を行うこともある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーである行政や家族、地域の代表から意見や要望が出されている。外部評価と、その後の取り組みについても報告している。ホームへの理解も得て、双方向的に意見を交わし意見交換の記録もとっている。今年度より、地区長が参加メンバーに入っている。	会議では、事業所からの行事、事故、ヒヤリハット等の近況報告をもとに、参加者と活発に意見を交換している。外部評価結果も、評価後の振り返りシートの様式を活用して報告を行い、参加者の理解を得ている。議事録は詳しく記載し、全家族に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター、住民課などと意見を交わし、施設の情報を報告し地域からの情報も聞いている。	運営推進会議で事業所の状況を伝え、町担当者から助言を受けるほか、介護報酬改定時には、必要に応じ連絡、相談している。町担当者が出席する介護サービス連絡会に事業所も参加し、研修や災害対策等の意見交換をして連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修には積極的に参加する体制であり、日常的にも勤務の中でも説明している。玄関の施錠は夏場は七時、冬場は夕食後にしている。	法人内研修や外部研修、職員会を通して職員は身体拘束の弊害への理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。特に言葉による拘束がないよう、職員同士で注意し合っている。夜間は行動の安全面から、必要とする利用者の家族の了解を得たうえで、センサー等を使用することもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より利用者の尊厳について考え、正しい行動のもと介護に当たっている。虐待を見過ごす事のないよう、職員がお互いに注意し合い取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について説明するなど、研修等で権利擁護の理解や尊厳の保持も含めて職員への周知徹底に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては十分説明して納得してもらうよう取り組んでいる。ご家族が県外の場合にはその後にも連絡を取り合うなど、理解してもらうよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族の意見は受け入れる姿勢を持ち、今後の運営に繋げるよう心がけている。年一回の家族会には家族間のみで話し合えるよう配慮している。今年度は行事(運動会)と一緒にいき、7家族9名が参加された。	管理者が毎月利用者の状況を手紙で知らせ、家族の来訪時には、利用者の近況報告と共に意見や要望を聞いている。家族会は年1回、行事に合わせるなどして開催し、今年度は7家族が参加している。家族同士で話し合う場を設け、結果は議事録にまとめて全員に送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会に施設長も出席し、代表として連絡事項なども連絡している。職員は日頃の業務に関する意見も出し、共通意識が図れている。	日々の情報交換や毎月の職員会での意見交換を通して、利用者の状況に応じたケアの改善案が出されている。職員提案により、食事での「おにぎり」を食べやすく一口サイズにしたり、部屋の乾燥防止のため濡れタオルを掛けるなど意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価を通じて代表者は職員の勤務状況を把握し、職員も働きやすい職場環境や人間関係を築くよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の研修には積極的に参加を心がけている。職員からの希望も取り入れられている。各自が資質向上の為、代表者は協力の姿勢を持っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会に参加し、他の施設との意見交換や情報を聞く事で反省や参考にし取り入れている。また、町内の全施設が協力し、3部会に分かれて施設が主体となり活動している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族訪問時に、ご本人と家族を交えて不安や問題点を提案するなど信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の面接時に情報収集を行い、ご家族の不安や要望を十分伺い、生活支援説明を行い信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスや援助について早期に把握し、希望に沿った内容になるよう計画している。入居時には特に家庭生活に近づけた希望や、施設での希望を初期のサービスプランに取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中でスタッフと入居者が共存し合い、日々の個々の暮らしに付き添う事を心がけている。入居者の方にもできる事はお手伝いして頂き、共通の話題から親しい関係作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	常に協力体制を持ちながら、家族の立場も考えて本人の気持ちを見守りながら両者を支えている。		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	外部からの面会には、交流がスムーズにできるような配慮をする事で、地域との関係が継続されるように支援している。町内スーパーへの買い物同行や、ご家族に受診をお願いすることで繋がりが継続できている。	毎日の食材購入に利用者を誘って馴染みのスーパーに行ったり、通院の帰りに自宅周辺を回ることもある。また、馴染みの場所である喫茶店や「道の駅」に全員で出かけて交流することもある。家族が馴染みの美容院に連れて行ってくれたり、友人の面会もあり、関係継続を支援している。	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	利用者同士の会話からも、ひとつの家族としての関係が築かれている。心配して声をかけられるなど、孤立する事は全く見られず、スタッフも側面的に十分支援している。		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	退去後も地域で再会する折に近況を話しあったり思い出話をするほか、必要に応じて支援や相談もしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	暮らし方の希望や意向に沿えるように努めている。把握が困難な場合は家族から情報を頂くことになっている。スタッフは日頃の関わりの中で意向や希望を聞き、ケアプランにも反映されている。新入居者にも先ず、生活の中での希望を聞き取っている。	入居時の利用者の生活歴等の基本情報や、家族からの聞き取りにより、利用者に関する情報を得るとともに、日々の関わりの中では、行動や表情などから、思いや意向の把握に努め、利用者本位のサービスに努めている。	各利用者の担当職員がアセスメントシートを活用し、得られた情報を全職員が共有することに引き続き取り組むとともに、新たに把握した趣味や好み、特技、背景などをシートに追記し、ケアに活かすことを期待したい。
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	初期段階において、家族やケアマネジャー、ソーシャルワーカーなど関係者から情報収集を行うとともに、入居後も聞き取り等を通じて把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活の流れや心身の状態、残存機能の把握に常に気配りしている。就寝・起床時間もそれぞれの主体性に任せ、寄り添った援助をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月・3ヶ月、6ヶ月毎の評価、担当職員の見解、家族の要望等を踏まえ、職員間で検討し本人の状況に沿った介護計画を作成している。評価時には内容も、家族に送付している。	利用者に関する日々の気づきや変化をモニタリングで把握し、本人や家族の意向を確認して職員でカンファレンスを行い、本人の現状に即した介護計画を作成している。基本的に6カ月ごとに、また変化があれば随時見直し、内容について家族の了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を客観的に把握しつつ、会話の内容なども個別に記録している。その記録や情報をもとに職員間で現状を共有し、日頃の援助や介護計画の見直しに活かしている。又、日々の変化にもすぐにその日の職員間で話し合っ対応し、引継ぎしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の解決が求められるケアには、その日の職員間で話し合い、柔軟に対応し、全職員間での引き継ぎで情報を共有し毎日の業務に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握したうえ、利用者がその都度参加できる体制作りに配慮し、何よりも安全な生活を保障した支援を心がけている。町内の行事へも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時点でかかりつけ医を伺い継続も可能、協力医の変更も可能な事を説明している。定期的な通院は管理者が同行、可能であればご家族にも協力を得ている。受診結果は家族への毎月の手紙や、変化があれば電話で報告している。職員には情報の周知の為、ケース記録引継ぎ帳、通院記録で共有している。	入居前からのかかりつけ医等、希望の医療機関への受診を支援している。通院には家族が同行するほか、職員が同行し、受診結果に変化があれば電話で家族に報告し、変化が無ければ家族の訪問時や毎月の手紙で知らせている。職員は通院記録等で、情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックや体調の変化は管理者に報告し、週1度の看護師訪問の際に相談などしている。職員は日常の関わりの中で常に気を配り、報告を励行し早期の対応につながるよう取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、家族や病院関係者との情報交換に努めている。又、退院に向けての調整などにも配慮し、ソーシャルワーカーとも連絡をとりながら関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、協力医は基本的に事業所での看取りを行わない事を説明している。過去に看取りの支援をかかりつけ医の協力で行った例もあり、主治医、家族と連携が取れていた。今後も家族の希望時に主治医の協力が得られる場合には、家族の意向や主治医の指示を職員間で共有し体制を整えていく。	入居時に重度化や終末期対応について、事業所で出来ることを指針に沿って説明している。協力医療機関とは距離があり、密接な連携が困難なため、事業所での看取りが難しく、今後、家族から看取りの希望があれば、関係機関と調整を図り、できる範囲の支援を検討していくことにしている。	今後の支援の充実に向けて、終末期ケアの学習会を持つなど、職員の意識の共有を図ることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急性が高いと判断した場合や、事前に予測を立てることなど、その時々での対処方法を日々の中での話し合いや職員会を通じて周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画のもと、特別養護老人ホームと協力体制をとり、訓練を行っている。災害時は立地的にも近隣の協力は難しいが地区長と検討した結果、災害時はお互い協力体制を図る事になっている。	年2回、地震による火災も含めた自主訓練(1回は夜間想定)を実施している。近隣に民家が少なく、地域住民の参加は得られていない。訓練は併設の特別養護老人ホームと合同で行い、協力体制を確認している。非常用食料等は3日以上備蓄している。	年2回の訓練時には、運営推進会議のメンバーにも協力してもらい、可能な地域住民の参加が得られるよう努め、年1回は消防署職員が立会って、訓練することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権や尊厳を保ち介護を行う事、個々の生活歴や人格を大切に適切な言葉がけをする事を、日頃より心がけている。適切でない言葉遣いは職員間で注意しあったり、職員会でも周知している。又、マニュアルに沿って個人情報や他人に漏らさない事等、プライバシー保護も徹底している。	内部研修を通して、職員には利用者のプライバシーの確保を十分に理解させ、個人的な話しは公の場ではしないことにしている。また、声の大きさに配慮し、トイレ誘導時には、さりげなく耳もとで声をかけるなど、利用者個人の尊厳を守っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本位の支援を基本に、内面の思いを感じとること、会話を通じて入居者の方に自己決定をしてもらう事ができるように日々の場面作りに取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由で安心し安全に暮らせる生活の場であり、入居者の方のペースを優先し、希望に沿えるよう、笑顔で居られる満足できる状況を、利用者の方と一緒に作りだすために日々の関わりを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた着衣や、希望に応じて基礎化粧品も購入するなど支援している。美容院を定期的に利用している方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事は楽しいものであること、美味しいものを提供することを大事に献立は職員が当番制で作成しているが、利用者の希望を聞き、その日のメニューに取り入れれたり料理の下ごしらえ等を一緒に行っている。季節感を取り入れた献立を心掛けている。	利用者の嗜好を聞きながら、利用者のアレルギーに留意して調理担当者が献立を作っている。職員は、利用者に食材の下ごしらえや食器洗い等出来ることを手伝って貰い、利用者を見守りながら一緒に食事を取っている。味付けを工夫し、食事を楽しめることを大事にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時のお茶やコーヒータイムなどを通じて、1300ml以上の摂取を確保している。利用者の方の好みの物、飲みやすい物を提供して、栄養面では栄養補助食品で補うなど個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に適したハブラシを使用し、毎食後の口腔ケアでは義歯や残歯の清潔保持についても可能な限り本人ができるよう援助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、個々に適した言葉がけを用いて、全員トイレでの排泄を実施している。夜間も入居者の状況に応じトイレ誘導している。残存機能維持にもトイレでの生活リハビリを考えている。	排泄チェック表の記録から、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。利用者全員がトイレで排泄が出来ており、おむつ使用者はいない。夜間もポータブルトイレは使わず、サイズの大きいパッドに変え、トイレ誘導している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水分補給や、十分に水分をすることで排便の効果も出ている。一日2回のラジオ体操の実施や献立も工夫もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に1回実施し、必要に応じて清拭対応も取り入れている。入浴時の見守りなど個人の状況に合わせた援助も行っている。基本的には午後を入浴としている。	利用者の希望に応じて入浴を支援しており、大半の利用者が2日に1回の入浴になっているが、毎日入浴する利用者もいる。入浴を拒否する利用者には、入浴という言葉は使わず「着替え」を理由に誘うなど、声かけを工夫している。利用者の出来る事は任せて見守り、入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や就寝時間も入居者個々に異なり、朝まで安眠できる方、トイレの回数が多い方などそれぞれに合わせた見守りや誘導を行っている。休息はロビーをいつでも自由に利用でき、来られた際は対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報の閲覧や、疾病と薬剤の関係など必要に応じ職員に指導している。服用確認、誤薬防止のため服薬チェック表を使用している。処方の変更の際の引継ぎなども徹底している。引き継ぎや受診記録で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌や踊りの得意な方、家庭より行っていた洗濯物たたみや食器拭き、それぞれの好みや得意な場面を発揮できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	併設の特別養護老人ホームには何かにつけて出かけている。又、日常的に自由に散歩や買物への同行、四季折々の花見や行楽に行き、外食や町内の喫茶店も利用している。	食材等の買い物を兼ねて、希望する利用者と一緒にスーパーに出かけたり、事業所周辺を日常的に散歩している。近くの「道の駅」におやつを食べに出かけることもある。四季の花見や近辺のドライブ、初詣にも行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は自己管理の利用者はいない。希望があれば購入ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で電話を所持し家族と自由に連絡をとったり、家族との連絡の際に入居者の方に電話を取り次いだりもしている。又、親類からの手紙も届いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南に面した共用のロビーでキッチン、浴室全てから太平洋を眺めることができる。出来る限り四季を感じられるよう花を置き、居心地の良い空間となるように心がけている。入居者の憩いの場所でもある。他には七夕、クリスマス、正月などの飾りつけも行い季節を感じて頂いている。	玄関や居間には生花や観葉植物を置き、廊下の壁面には七夕、クリスマス、運動会、家族会などの写真や、利用者のぬり絵の作品を飾って親しみのある空間にしている。また、大きなソファや畳の間もあり、太平洋を一望でき、ゆったり寛げる空間で利用者は自由に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者は1箇所にいるのではなく、自室やロビーでくつろぐなど思い思いの場所で語り合いながら、1人でも行動が取れるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の方の希望を聞き、生活の延長を援助するよう心がけている。それぞれの住みやすさを考えた援助を行っている。	各居室はベッドとクローゼットを備え付け、日用品が整理されている。箆笥、収納棚、椅子、時計、テレビなど、利用者が使い慣れた家具等が持ち込まれ、家族写真や孫からの手紙などを置いて、利用者それぞれが暮らしやすい居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本は安心安全な介護である事を忘れずに、できる事や可能な事を生かして、残されている機能が発揮できるように生活の援助を行っている。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない